

教会学校だより

ま たね 播 かれた 種

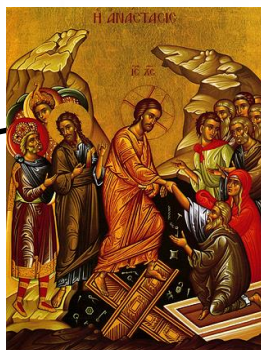
The Eastern Diocese of the Orthodox Church in Japan



断酪の主日
(復活祭の7週前)

☆聖枝祭
(復活祭前の主日)
☆生神女福音祭
(4月7日)

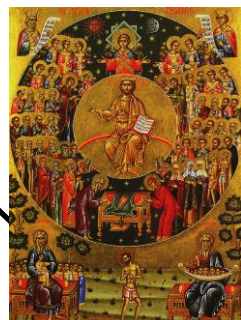
三歌斎経



聖大パサハ(復活大祭)
(毎年日付が変わる)

☆五旬祭
(復活祭から50日目)
☆升天祭
(復活祭から40日目)

五旬経



衆聖人の主日

(五旬祭の翌主日)
翌週の「衆聖人後の主日」より、8調のサイクルが始まる。

☆迎接祭(2月15日)
☆神現祭(1月19日)

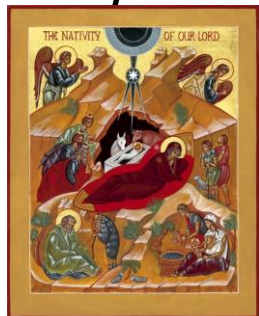
大斎(復活祭の斎)

「断酪の主日」の翌日から「ラザリのスボタ」前日(聖枝週金曜)まで。聖枝祭翌日から復活祭までは大斎ではなく「受難週間」。

聖使徒ペトル・パヴェル祭の斎

「五旬祭後第1主日」(「衆聖人の主日」)の翌日から。年によって日数が変わる。食事規定は火・木に酒と油が許され、土・日には魚も許される。

正教会の一年



☆降誕祭
1月7日

降誕祭の斎(フィリップの斎)

聖使徒フィリップの記憶日の翌日(11月28日)から、「降誕祭」までの40日間。食事規定は聖使徒の斎に準じる。

生神女就寝祭の斎

8月14日の「十字架出行祭」から「生神女就寝祭」までの2週間。食事規定は大斎に準じ、「小さな大斎」と言われる。

聖使徒ペトル・パヴェル祭

7月12日

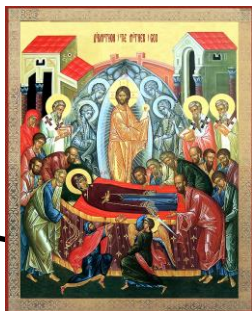
☆生神女進殿祭(12月4日)



聖使徒フィリップ
11月27日

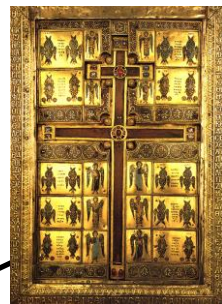
☆生神女誕生祭(9月21日)
☆十字架架奉祭(9月27日)
※主日の福音の読みは、「十字架架奉祭後の主日」までマトフェイ伝が読まれ、その次の日曜からルカ伝となる。

教会暦上の新年(9月14日)



☆生神女就寝祭
8月28日

☆顕栄祭(変容祭)(8月19日)



☆…十二大祭
※祭日の文字の色は、その祭日の奉神礼で用いる色を表しますが、「白」には黒字を使用しています。

※日本では、ペトル・パヴェル祭の前後に全国公会が行われる。

十字架出行祭
8月14日



若者の自立と信仰

司祭 ルカ田畑隆平

現在、多くの若者が、社会と上手く関わる事が出来ず家に引き籠り、苦しんでいます。私は医師免許を持つ医者でもなければ心理学に詳しい訳でもありませんので、専門的なお話は出来ませんし、軽々しく社会問題に口出ししてはならないとも思います。しかし、私自身に「引き籠り」だった過去がありますので、少しは彼らの心を代弁することが出来るかもしれません。また、私がどん底から救われたのは、やはり「信仰」によってでしたので、過去の私のように一歩が踏み出せず苦しんでいる若者に、ぜひ信仰を伝えていただきたいと願い、紙面をお借り致します。

私は 20 代前半のうち 2 年程を、ほぼ家から出ずに過ごしました。理由は、体調不良です。医者からは自律神経失調症と診断されましたが、時折パニック障害のような症状に襲われ、とても家から出られませんでした。もちろん、それは「時折」であって、ほとんどの時間は「普通」で、健康だったのですが、しかし人前でそのような「おかしい」状態になってしまうことを恐れ、仕事はおろか外出すら出来なくなってしまったのです。

そしてこの「人前で」というのが実はポイントで、若者が引き籠ってしまう理由の一つには、「人目が怖い」「失敗したら許されない」「誰も助けてくれない」といった人間不信があるように思います。社会の前提は「約束事・ルールを守る」という言わば「律法主義」であり、失敗は取り返しのつかないことであって、「赦し」や「受容」が前提ではないからです（少なくとも彼等の目にはそう映っています）。

確かに、社会とは、人間という対等な存在同士の関係の中にあるものですから、一方が損を被ったらそれを我慢し、相手を赦さなければならないということでは成り立ちません。それでは対等でなくなってしまうし、何より赦しが強制になってしまえば、それは自発的なものではなく、愛ではなくなってしまう。しかし、そのような「社会のルール」を超えた赦しが無ければ、人に全幅の信頼を置くことはできず、自身の存在価値を認め、自己肯定することもできません。なぜなら人は自身が完全に受容される体験を通して、初めて自分の存在を受け入れられるからです。

そしてこの「赦し」とは、この世だけで完結した「社会」に基づくものではなく、この世を超えた、宗教的な価値観に基づくものです。有限なこの世だけを考えれば赦しはただの損ですが、永遠という視座から見れば、赦しは愛であり人間を人間たらしめるものです。さて、彼等は「ルールを守ること」同様に、いやそれ以上に「赦されること」を体験して来たのでしょうか。この世の「社会のルール」を超えた、永遠の次元に基づく生き方を教わって来たのでしょうか。

この数十年の間、日本人はあまりにも「この世」だけを見て生きて来てしまったように思います。物質的にはまだ見ぬ「豊かさ」を目標に、懸命に働きました。思い描く幸福のイメージには、物に囲まれ、何不自由なく暮らす姿があったからです。とは言え、物だけに気持ちが傾いていたというわけでは決してありません。人や家族を大切にすること、互いに協力して目標を実現することなど、人間関係も大切にしてきました。ですから次の世代にも、夢を持つことや、幸せな人間関係を築くこと、そして人生をエンジョイすることが大切であり、その為には努力しなければならないということも教えてきました。もちろんそれも大切なことです。しかし今の若者には、そのような幸福観は虚しく聞こえると思います。なぜなら彼等は、物を手に入れようが誰かと仲良く過ごそうが、そのようなこと

では決して幸せにはなれないと気付いているからです。世が追い求めた、物が溢れ 24 時間いつでも人と繋がる事が出来る「幸せのイメージ」が実現した世界のど真ん中を実際に生きている彼等は、皮肉なことにそれらが頼りないものであると身を以て知ってしまっているのです。

物も人間関係も人を救いません。また自然も、いつ人間に牙を剥くかわかりません。全くこの世は不確かです。目標がある時代には、その不確かさに目を瞑ることも出来ました。しかし今の若者には、その不確かさだけが重く押し掛かっています。そのような中で、自分の意志で「自立した大人」になることに、果たして意味を見出せるのでしょうか。そもそも彼等は、「自立」の意味を、「経済的に」という観点からしか教えられて来ていないのではないのでしょうか。一人の人間として、この世に生まれ、死んでいく。その上でこの世界をどのように理解し、何に信頼して生きて行けば良いのか。金か、物か、友か、家族か。もちろんそれらも大切でしょう。しかしそれ以上に、唯一決して揺るがないもの、誰からも決して奪い取られないもの、つまり永久の神への信仰を教えなければ、目標の無い時代を生きる彼等に、精神的な自立を促すのは難しいのではないのでしょうか。物が足りない時代には、物という具体的な目標の為に頑張ることが出来ました。しかしいま彼等に不足しているのは、変わらない、普遍的な価値観です。彼等は人間存在の本質的なことに飢えているのにそれを与えられず、却って本来はその結果であるはずの社会生活の営みばかり要求されてしまっているのです。彼等が動けなくなってしまうのも無理はありません。

私は神を知り、ハリストスを信じることによって救われました。世の基には永久の神が在り、神は人を愛しておられ、人は赦され救われると知り、立ち上がることが出来ました。また、教会と出会い、赦すことを人間関係の第一義とする群れの中で、初めて安らぎを覚えました。もちろん教会も人間の社会ですからルールもあればいざこざもあります。しかし教会のメンバーは全員が、不完全ながらも「我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え」と祈っているのです。アメリカの教育学者ドロシー・L・ノルテは、「子どもは周りから受け入れられて育つと世界中が愛であふれていることを知る」と述べていますが、正に教会こそ「赦しの社会」であり、彼等に必要なのは、赦し・受容の中で神を知り、社会を信頼し、自己を肯定していくことではないのでしょうか。

彼等の今の苦しみは、神と出会う準備の為の生みの苦しみであると思います。彼等が真理を求めるなら、神はそれをお与えになるからです。

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は、見つけ、門をたたく者には開かれる。」(マトフェイ 7:7)

彼等が神と出会えるよう祈ると共に、私たち自身が信仰を伝えられるよう努めましょう。



教会学校ニュース



■仙台管轄

〔新入学・進級モレーベン〕

4月2日(日)の聖体礼儀に引き続き、当月の聖名日感謝祈祷と併せて、子供たちの新入学・進級の感謝祈祷が行われました。参拝者全員で、当日集まってくれた8人の新たな門出に於ける神様の祝福を祈りました。



■一関管轄

〔洗礼〕

今年の三月に一歳の女兒の洗礼がありました。一関正教会信徒家族の中で、幼児洗礼は久々。1997年以来ですから20年振りです。赴任以来の古い写真が集会室の壁に貼ってあり、洗礼盤のなかで大泣きしている20年前のノイ小野寺一耕君が写っています(ノイ兄は今回洗礼を受けたウェア志衣ちゃんの叔父に当たります)。

一関に赴任してから「親子ルーム」なるものを作り、母親達で月に二回、土曜日の午前10時から始めていました。第一回は96年9月。みんなでお祈りし、神父様のお話を聞き、先生の紹介や友達紹介、今日の予定、各自持ち物確認、お約束等々とあり、「成果」は敬老の日に合わせて折り紙・クレヨン・色鉛筆を使って画用紙に絵を描いた。昼食はカレーライス、ポテトサラダとノートにあります。2000年春頃からは一人参加が多くなり、やがて親子ルームは自然になくなりました。



■石巻管轄

〔新入学・進級モレーベン〕

4月9日(日)聖枝祭聖体礼儀後に、4月から入学・進級した子供たちの健やかな成長を願い、モレーベンが行われました。当日は2名の子供たちが参拝し、教会の大人たちに見守られ、祝福されながら、祈祷に与かりました。



■釧路管轄[エッグスタンド作り]

復活大祭を控え、子供たちは折り紙でエッグスタンドを作りました。色とりどりの折り紙をうさぎの形に折り、顔を描いて、復活祭を待ち望む気持ちを高めました。復活大祭では庭に隠したイースターエッグを探して遊びました。好天に恵まれ、子供たちは教会の庭を走り回っていました。



■札幌管轄[降誕祭・復活祭]



記録的な積雪に見舞われ交通機関の乱れが続くなかでしたが、札幌教会の降誕祭には100名を越える参拝者が集いました。祝賀会では教会学校生徒による聖句暗誦、そして「パーフェクトヒューマン」のパフォーマンスに一同爆笑。信徒から子供たちにと献納された袋菓子をサンタさんから受け取った50名の子供たちの眼が嬉しそうに輝いていました。復活大祭はポカポカ陽気のもと盛大に執り行われ、子供たちは庭で卵探しゲームを楽しみ、きれいに飾られたイースターエッグを手にして満面の笑みを綻ばせていました。



■函館管轄[洗礼]



子供たちの洗礼が行なわれています。正教会では、子供が小さい時の洗礼（基本的に生後8日目）を薦めています。子供の洗礼は、周りの大人の信仰に依って行なわれます。一人の人間が、その人生の始まった時点から、主・神の祝福と庇護を受け、正教会の教えの下で一人前のハリスチアニンとして育っていくことは、本人の生涯において大きな援けとなり、力となります。また、そのような生き方が世の光となるのです。



寓話 「雲におおわれた星」

作：ダヴィド水口優明

とある星がありました。そこに住む人たちは、青空というものを見たことがありませんでした。その惑星では、一日中、一年中、何百年も何千年も空は厚い雲に覆われていて、誰も太陽の光を見たことがなかったのです。朝になると、ほんの少し薄明るくはなるのですが、人々の生活と心は、分厚く真っ黒い雲にずっと圧迫されていました。空全体を覆い尽くすその黒い雲は、その星を闇で包んでいました。人々は、暗い雲の下で不安と悲しみと苦しみをもって生きていました。

しかし、ある人たちは言いました、「あの雲の向こうには青空というものがあるのだ」「光溢れる世界が広がっているのだ」と。

ところが、その言葉を信じる人はそれほど多くありませんでした。黒い雲という現実には、あまりにも長く、あまりにも容赦なく人々の心を塞いでいたのです。「青空があるなんて信じられない」「お前はそれを見たのか。私はこの目で見えたものしか信じない。私の目の前に広がるのは雲だけだ」と。

これらに対して青空を信じる人たちは言いました、「きっといつかこの雲が壊れる時が来る」「その壊れた雲の隙間から光が地上に降りてきて、私たちに青空と太陽を見せてくれる日が必ず訪れる」。

果たして、この予言が成就する日がやって来ました。絶対に壊れることはないと思われていたあの黒い雲が、突然、切り裂かれ、その雲の隙間から一筋の光が真っ直ぐにのびて来たのです。

その光を見た人々は、確信しました。雲の向こうに光があることを。その光を与えている太陽の存在を。そして、雲の下でも多少の薄明かりがあるのは、その太陽のおかげである、ということ。

壊れた雲の間から降りてきた眩しい光を見た人々は、そのことを人々に伝えて行きました。そして黒い雲という現実には負けることなく、絶望することなく、光を信じて生きることがいかに大切であるか、ということをお教えしました。その教えを聞いて光を信じて生きようになった人々は、「光の子」と呼ばれました。

私はその光を直接見たことはありません。しかし、「光を見た」と言った人たちの証言を信じます。「青空なんてない」「太陽などない」と思うことはおかしいことだと感じるからです。雲は今日も空を覆っています。しかし、この星の上でも、希望と感謝をもって生きることができるようになりました。

この寓話を解く鍵：「とある星」＝「地球」、「黒い雲」＝「死・罪・不条理」、「青空」＝「神の国」、「太陽」＝「神様」、「光」＝「ハリストス」、「雲が壊れる日を信じた人々」＝「預言者たち」、「光を見た人々」＝「弟子たち」、「光の子」＝「ハリストティアニン」



しつもんばこ



Q 教会でみんなが「主、憐れめよ。主、憐れめよ。」と何度も歌っています。どのような意味があるのですか？

A 「憐み」には、愛すること、かわいそうに思うこと、助けてあげようとするなどの意味があります。古代中国語では「憐」の右側部分は皆の犠牲として木に磔になった人から鬼火が出ている様子を表したもので、それを見ている気持ちを指しました。古代日本語では「あわれ」は、「しみじみとした美しさ、心地よさ」といった良い意味合いで使われることが多かったのですが、現代語では「かわいそうだ」といった良くない意味合いで使うことが多いです。

正教会のお祈りはギリシャ語で作られましたから、ギリシャ語の意味合いも見ましょう。「主、憐れめよ」はギリシャ語で「キリエ、エレイソン」です。「憐」に当たる部分「エレイ」とは、もともと「油、オリーブオイル」のことです。

油は生き物が生きていくために必要なものです。体を動かすのに必要なエネルギーになり、成長するための新しい細胞をつくる材料となります。油は乾燥・水分が失われるのを防ぎ、体温を外に逃がしにくくしています。細胞と細胞の間でクッションとしても役立っています。ぴちぴちのお肌には油が必要です。

快適に暮らすためにも油が必要です。油に火をつけて明りにします。真っ暗で見えなかったものを見えるようにする力が油にはあります。たくさんの油を燃やせば、暖まることもできます。寒くて動けなかったのが動けるようになるでしょう。昔はやけどや傷に塗ったり、また薬草などを油で溶いて使いました。油には傷ついたものを直す力があります。

また、ものを保存し、悪くならないようにする力があります。肉や魚、野菜など油につけて保存することがあります。金属に塗って錆びるのを防ぎます。油にはものを良い状態に保つ力があります。木の板に書かれたアイコンに油を塗っておくと、乾燥してひび割れたりするのを防ぐ事ができます。潤滑剤としても使います。機械の歯車などには油をたくさんつけないと、こすれてすぐに壊れてしまいます。このように、油が持っているさまざまな力を神さまが私たちに与えて下さるよう「主、憐れめよ（キリエ、エレイソン）」と祈っているのです。

「主、憐れめよ」は連祷というお祈りで歌います。連祷の「我等安和にして主に祈らん」は「私たちが心穏やかになって互いに愛し合い、神さまに祈りましょう」ということですし、「上より降る安和と我等の霊の救の爲に主に祈らん」は「神さまの愛に感謝し、悪い気持ちを改めて善い人になれるように神さまに祈りましょう」ということです。まず私たち自身が良い人間になろう、悪いことは改めようとする必要があるのですが、私たち自身の力だけではできないこともあるのです。ですから「神さま、憐れんでください、油が持っているような色々な力を私たちに与えてください」と祈ることが大切なのです。（司祭ステファン内田圭一）

○教会では、皆さんの質問をお待ちしています。神父さんに聞きたいことのある人は、ぜひ質問を送ってください！どんな質問でもかまいません！

FAX (022) 224-3080 E-MAIL: orthodox@hyper.ocn.ne.jp

日本ハリストス正教会 東日本主教区 北海道ブロック教会学校宿泊研修会

キャンプだホイ！ 19th

2017 in 深川

楽しい企画がいっぱい！
旭山動物園も見学します！！

ワクワク集まり、ドキドキ体験！
0～100歳までときめきキャンプ！！

参加のご案内

日時	2017年8月1日(火)～3日(木)
場所	北海道立青少年体験活動支援施設(ネイパル深川) 〒074-1273 北海道深川市音江町2丁目7番1号 TEL 0164-25-2059 FAX 0164-26-3600 http://neiparufukagawa.ec-net.jp/
参加費	おとな 10,000円 こども 6,000円(小学生～高校生) 未就学児 無料

参加の申し込みは所属教会または下記担当教会までご連絡ください。
担当:札幌ハリストス正教会 〒062-0042 北海道札幌市豊平区南2条2丁目3-1 TEL 011-852-5644 FAX 011-856-0818

キャンプだホイ！ 19th 2017 in 上武佐

- 実施日 8月1日(火)～3日(木)
- 開催地 北海道立青少年体験活動支援施設
(ネイパル深川)
北海道深川市音江町 2-7-1
<http://neiparufukagawa.ec-net.jp/>
- 参加費 おとな 10,000円
こども 6,000円(小学生～高校生)
未就学児 無料
- 申込 札幌ハリストス正教会
011-852-5644
011-856-0818
または各所属教会にお問い合わせください。

わくわく集まり、ドキドキ体験！ 0～100歳までときめきキャンプ！！

2017 7月30日(日)～31日(月)

コテージ鑑賞 パーベキュー 川遊び・工作・虫取り 天文台見学とプラネタリウム などなど

夏季修養会 in 秋保

日本ハリストス正教会 東日本主教区

ワクワク集まり、ドキドキ体験！
0～100歳までときめきキャンプ！！

宿泊地 仙台秋保 木の家
仙台市太白区秋保町湯元字馬乙2-1
電話 022-397-2714
<http://akiu-kinoie.co.jp/>

参加費 おとな 6000円
こども 3000円
未就学児は無料

締切り 7月9日(日)まで

参加の申し込みは所属教会または下記担当教会までご連絡下さい。
担当: 仙台ハリストス正教会 980-0021 仙台市青葉区中央3-4-20
電話 022-225-2744 fax 022-224-3080 orthodox@hyper.ocn.ne.jp

夏季修養会 in 秋保

- 実施日 7月30日(日)～31日(月)
- 開催地 仙台秋保 木の家
仙台市太白区秋保町湯元
字馬乙 2-1
<http://akiu-kinoie.co.jp/>
- 参加費 おとな 6,000円
こども 3,000円
未就学児 無料
- 申込 仙台ハリストス正教会
電話: 022-225-2744
FAX: 022-224-3080
e-mail: orthodox@hyper.ocn.ne.jp
または各所属教会にお問い合わせください。